

肝炎ウイルス検査実施の説明文書の例

B型肝炎・C型肝炎ウイルス検査について

◆ 肝炎ってどんな病気？

B型肝炎ウイルス（HBV）やC型肝炎ウイルス（HCV）は、感染している人の血液や体液で感染します。一般の生活、たとえば、食器を同じにしたという程度では感染しません。ウイルスが体内で増殖すると、長い年月をかけて慢性肝炎や肝硬変、肝がんを発症することがあります。肝炎ウイルスに感染している人は現在少なくなりましたが、労働者で100人に1人ぐらいの感染されている方がいます。

◆ 検査の必要はなぜあるの？

肝臓は「沈黙の臓器」と呼ばれるほど自覚症状が出にくいのが特徴です。また定期健康診断で測定する肝機能検査では肝炎の検査は含まれておらず、肝機能が正常でも感染している方が多くいらっしゃいます。なにしろ、一生に一度肝炎ウイルス検査を実施することをお勧めします。

◆ 肝炎ウイルス検査の受診のすすめ

肝炎ウイルス検査は、通常は一生に1度で十分といわれており、当社では今年度より定期健康診断、雇い入れ時健康診断に併せて検査ができるようになりました。特に以下の方には検査の受診をお勧めします。

- 過去に検査を受けたことがない方
- 過去の健診等で肝機能異常を指摘されたが、以後肝炎ウイルス検査を受けたことがない方
- 1992(平成4)年以前に輸血を受けた方
- 大きな手術を受けた方
- 血液凝固因子製剤またはフィブリノーゲン製剤を投与された方
- 長期にわたり血液透析を受けている方
- 臓器移植を受けた方
- 薬物濫用者、入れ墨をしている方
- ボディピアスを施している方

◆ 感染していること（検査結果が陽性）が分かったら

肝臓専門医をご紹介します。肝炎については、専門医で治療すると助成が受けられる制度がありますので、専門医にかかる必要があります。症状がないからといって決して放置しないで下さい。尚、結果については、医療職のみが扱い、会社が知ることはありません。C型肝炎については、経口薬でほとんど副作用なく完治する時代になりました。

肝炎ウイルスは日常行為、例えば会話や握手、会食、血液や体液がついていない場所（椅子、床、ドアノブ、便座等）を介して伝播することはないため、神経質になる必要はありません。ただし歯ブラシの共用や、傷口や皮膚炎を直接触るなど血液や体液への接触は避ける必要があります。陽性の場合には、家族やパートナーの検査も含め、主治医に相談しましょう。

◆ 社内問い合わせ先

安全衛生担当者〇〇 内線〇〇 外線〇〇

わからないことがあれば、お気軽にご相談ください。